

(表4) 主要授業科目の担当状況 (学士課程)

学部	学科	教育区分		必修科目	選択必修科目	全開設授業科目
アジア太平洋学部	アジア太平洋学科	専門教育	専任担当科目数 (A)	4.0	256.8	260.8
			兼任担当科目数 (B)	0.0	49.3	49.3
			専任担当率 % (A / (A + B) * 100)	100%	83.91%	84.11%
		教養教育	専任担当科目数 (A)	246.0	290.0	536.0
			兼任担当科目数 (B)	156.0	140.0	296.0
			専任担当率 % (A / (A + B) * 100)	61.19%	67.44%	64.42%
国際経営学部	国際経営学科	専門教育	専任担当科目数 (A)	31.5	202.1	233.6
			兼任担当科目数 (B)	14.0	28.3	42.3
			専任担当率 % (A / (A + B) * 100)	69.23%	87.74%	84.68%
		教養教育	専任担当科目数 (A)	246.0	290.0	536.0
			兼任担当科目数 (B)	156.0	140.0	296.0
			専任担当率 % (A / (A + B) * 100)	61.19%	67.44%	64.42%

[注]

- この表は、大学設置基準第10条第1項にいう「教育上主要と認める授業科目（主要授業科目）」についての専任教員の担当状況を示すものです。
- 原則として学科単位で記入してください。
- 履修者の有無にかかわらず、カリキュラム上設定された科目はすべて対象となります。
- ここでいう「専任担当科目数」には、他学部、研究科（又はその他の組織）の専任教員による兼任科目も含めてください。
- 大学の設定する区分に応じて、「教育区分」の名称を記入してください。

- 6 「全開設授業科目」欄には、「必修科目」「選択必修科目」のほか、「選択科目」「自由科目」など、すべての授業科目数の合計を記入してください。「必修科目」と「選択必修科目」の合計ではありません。
- 7 セメスター制、クォーター制等を採用している場合であっても、通年単位で作成してください。
- 8 1クラスのみ開講される科目を複数の教員が担当する場合は、専任教員と兼任教員の人数比をもとに記載してください。
例①：専任4人、兼任1人で担当の場合は、専任担当科目数0.8、兼任担当科目数0.2
例②：兼任のみ5人で担当の場合は、兼任担当科目数1.0。
- 9 同一科目を複数クラス開講している場合の計算方法は下記の通りです。
①同一教員による場合→専任教員が担当した場合は専任担当科目数1.0、兼任教員が担当した場合は兼任担当科目数1.0。
②複数教員による場合→専任教員と兼任教員の人数比による。例えば、すべて専任教員が担当した場合は専任担当科目数1.0、専任教員と兼任教員が1名ずつで担当した場合は、専任担当科目数0.5、兼任担当科目数0.5。

[大学注]

本表は2017年度の授業担当実績（2018年度4月以降に出力した出講簿）（2011年度カリキュラム科目）を基に作成した。

1 学部においては「その科目を修得しなければ卒業できないもの」および「卒業要件には含まれないが必ず履修しなければならない科目」の2種類を併せて「必修科目」と位置づけて本表に示している。

- ①日本語基準学生の英語科目（全学部共通教育科目の必修科目）
- ②英語基準学生の日本語科目（全学部共通教育科目の必修科目）
- ③「スタディスキル・アカデミックライティング」（全学部共通教育科目の登録必須科目）
- ④「多文化協働ワークショップ」（全学部共通教育科目の登録必須科目）
- ⑤「経済学入門」（全学部共通教育科目の必修科目）
- ⑥「統計学」（全学部共通教育科目の必修科目）
- ⑦「APS入門」（アジア太平洋学部専門科目の登録必須科目）
- ⑧「経営学入門」（国際経営学部専門科目の必修科目）
- ⑨「基礎数学」（国際経営学部専門科目の必修科目）
- ⑩「会計学Ⅰ」（国際経営学部専門科目の必修科目）
- ⑪「マーケティング入門」（国際経営学部専門科目の必修科目）
- ⑫「上級数学」（国際経営学部専門科目の必修科目）
- ⑬「金融論」（国際経営学部専門科目の必修科目）
- ⑭「人材と組織行動のマネジメント」（国際経営学部専門科目の必修科目）
- ⑮「生産管理論」（国際経営学部専門科目の必修科目）
- ⑯「ビジネス法務戦略」（国際経営学部専門科目の必修科目）
- ⑰「ビジネスエシックス」（国際経営学部専門科目の必修科目）
- ⑱「グローバルマネジメント（Capstone）」（国際経営学部専門科目の必修科目）

- 2 上記1以外の科目は選択必修科目と位置づけて本表に示している。
- 3 本学では、「選択科目」「自由科目」という区分は設定していない。
- 4 以上の理由により、「必修科目」と「選択必修科目」の合計が「全開設授業科目」となっている。